

蒲郡みかん塾の取組について

～関係機関が連携、カンキツ産地の未来を担う人材育成～

木本直樹（日本食品海外プロモーションセンター 海外プロモーション事業課）
（前所属：東三河農林水産事務所農業改良普及課 果樹経営指導グループ）

【2025年1月掲載】

【要約】

県内最大のカンキツ産地を有するJA蒲郡市は、地域の新たな担い手育成のため、栽培初心者向け講習会「蒲郡みかん塾」を開講した。親元就農者や定年帰農者などを対象に、年間8回、カンキツ栽培に関する講義と、圃場での実習を開催した。

1 はじめに（目的）

蒲郡市は県内最大のカンキツ産地である。しかし近年、生産者の高齢化や後継者不在による担い手不足が原因となり、栽培面積の減少が問題となっている。

JA蒲郡市はその状況を打開するため、地域の新たな担い手確保を目的とし、栽培初心者向け講習会「蒲郡みかん塾」を2023年2月に開講した。

2 活動概要

蒲郡みかん塾では、親元就農者や定年帰農者などを対象に、年間8回、栽培に関する基礎的な講義と、みかん圃場での実習を開催する。2023年に募集したところ、定員10名を超える13名の応募があり、全員を第一期生として受け入れた。

3 活動結果

担い手にとって効果的な講義内容とするため、内容や活動方針について、JA蒲郡市の担当者と農業改良普及課は定期的に検討会を開催した。

検討会議では塾生から要望があった講義内容や、地域の優良園地視察の開催などについて協議し、当初予定の無かった講義内容についても柔軟に実現した。また、講義当日は、農業改良普及課が座学と実習の講師を担当し、座学では、栽培に関する難しい専門用語をできる限り平易な言葉に置き換える工夫をし、塾生の理解を促した。

実習では、ただ管理作業を行うだけではなく、なぜこの作業が必要なのか、適期に実施するメリットや、時期が外れた場合のデメリットなど、管理自体の目的・意味と効果について解説することを心がけた。また、JA蒲郡市はみかん塾の運営と実技指導を担当し、蒲郡柑橘組合役員は、自園のカンキツ栽培で工夫した点について助言するなど、関係機関がそれぞれの立場で受講生に対し就農に向けた支援に取り組んだ。

その結果、最終講義終了後に塾生に対し、みかん塾についての満足度調査をアンケート実施したところ、5段階評価で平均4.5と高い評価を得ることができた。



図1 剪定実習を熱心に学ぶ
みかん塾生

最終講義終了後、塾生に対し就農意向アンケートを実施したところ、13名全員が将来的には就農したい意向を示した。

4 今後の取組

アンケートでは、みかん塾の改善点についても一期生に質問した。結果を集計後、検討会議でJA蒲郡市担当者と分析した。苗木の定植を学びたいという要望があったため、早速、第二期で苗木定植講習会を新設し、希望する一期生も受講できるようにした。この様に、毎年受講生から改善点を確認し、次年度からのみかん塾の内容に反映することで、より充実した講習会としている。

2024年に開講した第二期蒲郡みかん塾には11名が加入した。農業改良普及課は、JAや蒲郡柑橘組合など、関係機関と連携を強化し、今後も蒲郡みかん塾の運営を支援し、県内最大のカンキツ産地の新たな担い手確保に取り組んでいく。



図2 新設した苗木定植講習会